

## 狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会(第2回) 会議録(要旨)

- 1 日時 令和6年11月27日(水) 午後3時30分から4時50分まで
- 2 場所 市役所防災センター402, 403 会議室
- 3 出席者  
会 長 吉田 知弘  
副会長 工藤 聡  
委 員 辻 勘助  
中面 典子  
河原 成典  
石井 喬生  
愛甲 悦子  
梅本 ろり絵  
富永 浩正  
大津 喜一  
上田 英司  
篠宮 悠子  
堀松 英紀  
須貝 昭彦  
森 勇貴  
事務局 教育部理事(兼)指導室長 松岡 弘悟  
教育部調整担当理事 上田 智弘  
社会教育課長 金築 宏美  
指導室指導教職員係係長 海老原 悠輔  
指導室指導教職員係 高橋 恵介  
  
実証事業委託業者 スポーツデータバンク株式会社  
地域担当プロデューサー 長瀬貴紘  
事業推進室マネージャー 田村 篤
- 4 欠席者 栗城 隆司、前田正人、大久保慶吾、山田 龍彦
- 5 議題
  - 1 開会挨拶
  - 2 報告事項
    - (1) 部活動の実証事業の状況について
    - (2) 前回会議の振り返りについて
    - (3) 学校部活動に関する意識調査の結果報告について

### 3 意見交換

- ①部活動の合同化・拠点校化の方向性や留意事項について
- ②保護者負担の在り方

### 4 その他

第3回の予定について

令和7年2月3日(月)午後3時30分から午後4時50分

場所:市役所防災センター302, 303 会議室

## 6 資料

### 1 本日の次第

- 2 (資料1) 前回の振り返りについて
- 3 (資料2) 学校部活動に関する意識調査(教員・生徒・保護者)
- 4 (資料3) 部活動の合同化について(意識調査より抜粋)
- 5 (資料4) 保護者負担の在り方について(意識調査より抜粋)
- 6 (資料5) 部活動の合同化の方法について

### 7 参考資料

- ・ 狛江市立中学校 部活動別一覧
- ・ 部活動地域連携推進事業計画
- ・ 狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会の設置及び運営に関する要綱

## 7 会議の内容

### 【配布資料の確認】

事務局 第2回狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会の開催に先立ちまして、配布資料の確認をいたします。

### 1 本日の次第

- 2 前回の振り返りについて
- 3 学校部活動に関する意識調査(教員・生徒・保護者)
- 4 部活動の合同化について(意識調査より抜粋)
- 5 保護者負担の在り方について(意識調査より抜粋)
- 6 部活動の合同化の方法について

### 7 参考資料

- ・ 狛江市立中学校 部活動別一覧
- ・ 部活動地域連携推進事業計画
- ・ 狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会の設置及び運営に関する要綱

## 1 協議事項

会長

改めまして、よろしく申し上げます。本日はご多用の中、ご参会いただきありがとうございます。それでは、次第に沿って進めてまい

ります。

## 2 報告事項

会 長 (1)部活動の実証事業の状況について、スポーツデータバンク株式会社様から説明をお願い致します(以下、担当より説明)。

※委託業者からハンドボール部、吹奏楽部の活動状況について、プロジェクターにて説明。卓球部については、12月より活動予定であることを説明。

会 長 ありがとうございます。実証事業の状況報告でしたが、質問や意見がありましたらお願いします。私からは、御社が入ったことにより、これまでとどこが違うのか、教員の負担がどの程度軽減されたのかをお聞きしたい。

委託業者 まず、部活動の指導員としての立場と、地域クラブとしての立場の違いとしては、地域クラブが学校の管理外であることが前提となるので、兼職兼業の教員であっても外部の方として関わりとなり、弊社との契約が必要となるので、その契約内での指導となります。教員の負担軽減ということになると、実証事業がスタートしたばかりですので、具体的に教員の方とのヒヤリングまでには至っていないのが現状です。今後、調査を重ねて報告したいと考えております。

会 長 調査段階ということであれば、御社の今までの経験のなかで、想定される「負担軽減」とはどのようなものが考えられますか。

委託業者 端的に申し上げますと、休日に学校に出勤する必要がなくなるということと、全部をすぐという訳にはいきませんが、スケジュール調整や、緊急時の現場対応も含めて、地域クラブが対応することになるので(精神的な余裕)、そのあたりが他の自治体様からもよく聞かれるとこととでございます。

委 員 地域クラブ活動中に、怪我が起きた場合の対応はどうですか。

委託業者 狛江市様に限らず、地域クラブに携わっている指導員の方には、怪我等の対応だけでなく、生徒とのコミュニケーションにおける、ハラスメント対策等も含めて、研修制度を設けて、事前に研修を受けてもらい、マニュアルもご提供しております。具体的には怪我などの状況にもよりますが、怪我の箇所が頭部周辺の場合(救急搬送要請→保護者様へ直接連絡)、軽微な怪我(擦り傷等)であれば、弊社と利用者様とで利用している、バンドというアプリを通じて報告をしております。

## 報告事項(2)

会 長 前回会議の振り返りについて事務局より、説明をお願いします。

事務局 それでは資料1をご覧ください。前回の会議では、部活動の合同化や

拠点校化について、をテーマに意見交換をさせていただきました。  
具体的には、現状の「中学校ごとに設置されている部活動が異なる」「部員数が不足、在籍校のみでは公式戦に参加ができない」といった課題解決に向けて、資料に掲載している図のとおり、狛江第一中学校のハンドボール部のように1校にしか設置されていない部活動については、当該校を拠点校にして他校の参加を可とする。2・3校に設置されている学校については、うち1校を拠点校にして他校の参加を可とする。全ての学校に設置されていて、当面の間、全ての学校で単独での試合参加が可能な場合は単独で活動を行い、単独での試合参加が不可能な学校がある場合には合同チームとして活動を行う。といった案を示させていただきました。これに対し、委員の皆様からは、  
①外部指導員の人材確保・予算措置に加え、指導員に対しハラスメント対策研修の実施、学校の指導方針とのすり合わせを行うこと。  
②学校間移動における、生徒のリスクの懸念や、学校間同士の円滑な連絡・調整、生徒の増減に柔軟に対応し、活動場所を如何に効率よく確保していくか、夏場の熱中症対策。  
③当市の面積的特性を活かし、市の施設を柔軟に活用していく。  
④合同チームとなった場合、各校間の良好なコミュニケーション維持、目指す方向性の相違(楽しみか、勝負か)の調整といった意見を頂戴したところです。

全体として、導入するには様々課題があるものの、進む方向性としては共通の認識を持てたのではないかと受け止めております。また、この件については教員・生徒・保護者向けのアンケートにも設問があり、後程結果をご紹介しますが、全ての立場において概ね肯定的な結果となっています。説明は以上です。

会 長 それでは、このことについて委員よりご意見等がありましたらお願いします。なお、合同化や拠点校化に向けた具体的な議論は、この後の意見交換でも行わせていただきますので、ここでは前回の会議で出た意見の追記等に関する内容でお願いしたいと思います。→意見なし。

### 報告事項(3)

会 長 部活動に関する意識調査について事務局より説明をお願いします。  
事務局 それでは資料2 学校部活動に関する意識調査(教員向け)をご覧ください。なお、時間の都合上、特に重要なポイントの設問に絞ってご説明をさせていただきます。2ページ目をご覧ください。対象人数は市内中学校に在籍する正規教員99人で53人から回答を得ました。調査実施期間は本年10月17日から10月31日までです。3ページをご覧ください。Q4「現在、学校部活動の顧問をしていますか」に対しては98.1%の教員が顧問をしている結果になっております。

4ページをご覧ください。Q5「自分の希望に沿った部活動をしているか教えてください」については、43.4%の教員が希望していない部活動をしているという結果になっています。Q6「学校部活動の顧問をしていることに負担を感じていますか」については、77.3%の教員が負担を感じている結果となりました。

なお、Q4とQ6の設問のクロス集計により、各部顧問について、77.3%が負担を感じている結果となっております。

5ページをご覧ください。Q9では、部活動の地域移行が進むと、入部できる部活動の種類が増えることについては88.6%が肯定的に捉えています。また、7ページのQ13「近くの中学校や市内の中学校と合同部活動（合同チーム）となり、活動や大会（コンクール等）に参加することについて」も79.2%が肯定的にとらえています。

9ページをご覧ください。Q16「今後、教職員が部活動において兼業兼職ができることになった場合、どのようにしていきたいですか。」について、「今後、平日の学校部活動や休日の地域クラブ活動には関わりたくない」が43.4%と最も多い結果となりましたが、一方で「平日は学校部活動の顧問として関わる他に、休日は兼業兼業等の制度を活用して、指導者として地域クラブに関わりたい」であったり、「学校部活動の顧問として関わる他に、休日にはできる範囲で地域クラブに関わってもよい」と考えている教員もおられるという結果となっております。以降の自由意見欄は各自にてご覧ください。

続いて、資料2 学校部活動に関する意識調査（生徒向け）をご覧ください。2ページになります。対象は市立中学校在籍生徒のうち1～2年生としました。なお、前回の会議で小学6年生も対象にしてはどうか、とのご意見をいただきましたが、今回はこちらを対象としています。ご了承ください。対象925名のうち、510名から回答を得ました。

4ページをご覧ください。Q4「あなたは今、部活動に入っていますか」については94.9%が入っているという結果になっています。Q5入部できる部活動の種類が増えることについては、91.9%が肯定的にとらえていることが分かりました。6ページをご覧ください。Q8近くの学校や市内の中学校と一緒に活動することについても76.8%が肯定的に捉えており、次のページのQ9「近くの中学校や市内の中学校と合同部活動（合同チーム）となり、活動や大会に参加することについて」も、66.7%が肯定的に捉えていることが分かりました。また、Q12今後、参加してみたい競技・ジャンルについては、バドミントン・バスケットボール・eスポーツ・バレーボール・テニス・ダンスに多くの票が集まったほか、ニーズが多様であることが分かりました。現状設置されている部活動と比較しますと、バスケットボール・女子バ

レーボール部は全校に設置されていますが、バドミントン部と硬式テニス部は二中・三中のみの設置、男子バレーボール部は二中のみの設置、eスポーツとダンスは存在しない部活動となっており、在籍校の部活動の設置状況と生徒のニーズが必ずしも一致していない可能性があることが分かりました。自由意見欄は各自にてご覧ください。

続いて、資料2 学校部活動に関する意識調査（保護者向け）をご覧ください。2ページになります。対象は市立中学校に在籍する1～2年の生徒の保護者としました。対象925名のうち、295名から回答を得ました。5ページをご覧ください。Q5「部活動の種類が増えることについて」は97.9%が肯定的に捉えています。Q8「近くの学校や市内中学校と一緒に活動することについて」は、91.9%が肯定的に捉えており、6ページのQ9「近くの中学校や市内の中学校と合同部活動（合同チーム）となり、活動や大会に参加することについて」も、86.1%が肯定的に捉えていることが分かりました。7ページをご覧ください。Q12「休日の部活動が地域の活動に移行し、その活動にお子様に参加する場合、新たに活動費（指導者謝金等）の負担が保護者に生じることも考えられます。お子様の休日の地域の活動への参加（月に5回程度）と、保護者が負担する活動費との関係について、どのようにお考えですか。」については、75.6%が月3,000円～5,000円までと最も多い一方で、15.3%の保護者が費用負担があれば参加させないと回答しています。以降の自由意見欄は各自にてご覧ください。アンケートの集計結果の説明は以上となります。なお、部活動の合同化・拠点校化についてや、保護者負担の在り方については、本日の意見交換のテーマとさせていただいており、後程詳しく扱わせていただきます。

会 長 それでは、このことについて委員よりご意見等がありましたらお願いします。このテーマについては、この場でこの資料を提示されて即意見とは中々、出しづらいと思います。自由意見に絞って目を通して見ても、教員・生徒・保護者それぞれの視点からの意見があります。教員はかなり辛辣な意見（本音）、生徒は将来的な希望を思い、保護者は費用負担等の面からも現実的な意見が出されています。

### 3 意見交換

会 長 続いて意見交換に移ります。意見交換のテーマは「①部活動の合同化・拠点校化の方向性や留意事項について」「②保護者負担の在り方」です。それでは、まず事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、まず資料の説明をさせていただきます。資料3 部活動の合同化・拠点校について（意識調査より抜粋）と、資料4 保護者負担の在り方について（意識調査より抜粋）は、アンケートの結果から関連

の回答を抜き出したものです。意見交換の参考として活用いただきたいと思います。資料5は部活動を合同で活動する仕組みを整理したものです。1つ目の合同チーム方式は、野球部のように各校に部活動自体はあるものの、大会参加に必要な人数が不足している場合に導入する仕組みです。2つ目の拠点校方式は、在籍する学校以外の部活動に参加し、大会参加を行うことができる仕組みです。これらはいずれも地域移行せず地域連携、すなわち学校部活動のままでも導入が可能な仕組みです。3つ目の地域クラブは、学校以外の民間企業等が主体となり、クラブ活動を提供する方式です。中体連の規定を満たせば中体連の大会参加も可能ですが、デメリットとしては外部委託のため高額な費用が発生し、公費負担・保護者負担が発生することです。説明は以上です。

- 会長 複数テーマがあるので、資料に目を通していただきたいと思います。
- 委員 前回、欠席したので確認したいのですが、資料5でいくと、最終的にはどこになるのでしょうか。
- 事務局 最終的には3(地域クラブ方式)を目指しますが、費用面等からもすぐには難しいので、1,2を踏まえ進めていきたいと考えております。
- 委員 国や都も同じ意見なのですか。また、3を目指すなかで、休日だけなのか、平日はどうなるのか、他市ではどのような動きがあるのでしょうか。
- 事務局 国や都も同じ意見であるのと、3については、やはりすぐに平日・休日と一緒に難しいと考えているので、まずは休日からと考えております。他市については、渋谷区(別団体設置:保護者負担※月額制)・港区(各校に部活動指導員を配置)のような事例はありますが、各自治体ごとに運営の仕方が異なり、休日は教員が関わらないような体制をとっているようです。
- 会長 「①部活動の合同化・拠点校化の方向性や留意事項について」、〇〇委員から時計回りで御意見をお願いします。
- 委員 1(合同チーム方式),2(拠点校方式)を経て、最終的には3(地域クラブ方式)を目指すのがよいと思います。
- 委員 〇〇委員同様、1→2→3の流れがよいと思います。野球部が好成績を出したようですが、結果だけではなく、スポーツを楽しむ姿勢も必要だと思います。
- 委員 3でよいと思いますが、内申書との兼ね合いがどうなるのか、地域クラブになったことによってどう変わるのかということが気になりますが、3でよいと思います。
- 委員 野球部がよい結果がでたようですね。子どもに聞くと活動は楽しいようです。やはり、3にいくのがよいと思いますが、いきなりは難

- しいので、1, 2を経てからのほうが無理はないと思います。
- 委員 教員のアンケートを見ると辛辣な意見が目につきます。やはり教員の負担軽減をまず考えていかないと、中3の保護者としての立場からも、安心した環境に子どもを預けたいと考えます。そのためにも、将来的には3になればよいと思いますが、他委員同様、すぐには難しいので、現場の意見を真摯に受け止めていてもらいたいと思います。
- 委員 まず、アンケートを事前に見たところ、生徒は楽しくやりたい・技術を高めたい、保護者は費用負担のこと、教員は負担軽減とそれぞれの立場からの意見がでているようです。それを踏まえて、私としても3で進めていてもらいたいと考えますが、保護者アンケートにもあるように費用負担が課題となるので、そのあたりは、出来れば行政で担ってもらいたいと思います。
- 委員 野球部は良い結果がでたが、聞くと始めは楽しくはなかったようで、段々と合同チームが浸透してきて楽しくなってきたようです。そうすると、合同チームから始まった、それが慣れてきたら、地域クラブでいいよねといった流れになればよいと思う。何よりも、子どもには部活動を楽しんでもらいたいと思います。
- 委員 子供目線でみると1, 2, 3はあまり変わらず、教員視点でみると1, 2は逆に負担が増える、3となると保護者の費用面での負担が増える。どれをとるかということになりますが、私は3番です。保護者としては、教員の部活動の負担が増えることによって、授業に支障が生じることは避けてもらいたい。
- 委員 アンケートを見ると、生徒・保護者ともに合同チーム・拠点校に抵抗を感じることなく、受け入れていることが伺えます。また、教員の立場を考えると負担は非常に深刻であることや、保護者としては、教員の本来の業務に時間を費やしてほしいと考えます。私も、1→2→3の順で無理なくいければよいと思います。
- 委員 野球部の話が先程から出ていますが、移動が大変だと感じます。部活動は業務ではなく、教員の自発的な活動なので、例えば、移動の際に交通費が発生しても自己負担になりますので、そのあたりを配慮してもらえるとよいと思います。加えて、地域クラブは土日となっているので、平日からの引継などがあるので、負担はあまり軽減されないと思います。やはり、やるのであれば、予算上のこともあるので、すぐという訳にはいきませんが、将来的には平日も全て移行しないと教員の負担軽減にはならないと思います。
- 委員 地域クラブというのはやはり、まだ時間がかかると思います。それを踏まえて、現時点での話をさせていただくと、野球部を例に

とると、一中のグラウンドだと一中の先生、四中だと四中の先生がそれぞれグラウンドの調整を行っています。そのあたりの調整が現状、負担であります。また、拠点校というところを考えると、現状、三中はバドミントン部が入っているが、三中だけの指導者では運営が厳しいので、そのあたりは例えば外部指導員の増員などで対応すべきであると思います。三中については指導員の教え子が手伝っているようで、そのあたりは現場間で連携がとれていると聞いています。これらについては、合同チームでも言えることです。

委員 地域クラブはよいとは思いますが、やはり土日だけであると、それだけでも多少の負担軽減にはなるが、やはり、生徒指導・各種事務処理を始めとして、保護者対応等も考えると、週末だけではなく、特に生徒指導は一貫性に欠けると思います。何が変わるのかなといったことも懸念としてあります。私で言えば、吹奏楽連盟への事務手続等で土曜日に出張したこともありますし、他部でいえば、バスケ・バドミントン部等は体育館のキャパシティの関係で、体育館使用の調整が必要であると聞いています。他にも、当校にはジェンダーの問題を抱えている生徒がおり、入部の際、どのように調整していくのかといった懸念もあります。そうすると、皆さんと同じように、将来的には3ですが、当面の対応としては1, 2になるかと思えます。

委員 中々、難しい話でまとまりづらいいとは思いますが、まず、小学生であれば、地域の人が指導に携わっており、中学校にあがると、部活動として学校の先生が携わることになる。この状態は長年続いており、これが地域に移行となると、都市部よりむしろ学校や、子どもの少ない地方において、中学生に限らず全ての年代が一緒になってスポーツ等に関わっていくことになるのではないのでしょうか。今後は、スポーツ庁や文化庁がどのように考えているのか、現状のシステムがどこまで続くのかは分かりませんが、いつまでも同じことを続けるのではなく、学校現場も変わらなくてはいけないし、変わることになっていくと思います。理想論ではありますが、狛江市はコンパクトなので自転車移動等で臨機応変に対応していくことにより、拠点校方式が定着すれば、いずれは学校から少しずつ離れていき、将来的には地域クラブになればベストであると考えます。現状の拠点校方式や合同チームについては、選択肢が多ければ、小学生としても選びやすいと思います。それには、人であったり予算であったりといったことを考えなければいけません。あまりそのことを先に考えてしまうと、先に進まないで、狛江市としてまずどうしたいのかをアナウンスし

- ながら、やっていけばよいと思います。
- 委員 これまで沢山の意見を頂戴し、以前から当会に関わってきているなかで、他市の例を挙げると、ある市は、鶴の一声で教員全員、部活動顧問をやめるような指示を出したという事案があったようです。顧問をやめれば、当然土日負担もなくなります。教員がいなくなり、生徒だけになったときにどのような体制となったのかはまでは把握していませんが、狛江市でみると、学校(先生)の困りごと、生徒の困りごとをどのようにして解消していくのか。学校の困りごとは、まず、顧問がいないこと、顧問がいないと生徒も困ってしまう、これらを解消していくのが、現状、拠点校方式、合同チームで狛江はなんとか対応してまいりました。拠点校方式・合同チームを継続していくにあたって、指導者をどのように配置していくのか、特に指導者がいない部活動にどうやって指導者をあてがうのか、その活動は平日のみなのか、土日を含めるのか、それに加えて、部活動に関わりたい教員もいるのでその思いを汲み取るのも、拠点校方式であり、合同チームであると思います。
- 他委員同様、私も、最終的には地域クラブ移行でいくべきであると考えます。先ほどの意見にもありましたが、小学生＝地域のクラブでできているので、中学においてもそれは不可能ではないという発想でよいと思います。地域クラブになると、保護者負担等様々な課題はでてきますが、進めていければと考えております。
- 会長 ありがとうございます。全体の方向性としては、合同チーム・拠点校方式の導入は早期に図るべきという認識で、導入に向けた課題やご意見を様々いただきましたので、事務局の方で整理をお願いします。続いて、「②保護者負担の在り方」についてです。合同チームや拠点校方式の導入は地域連携、即ち学校部活動のままでも可能ですが、学校以外の組織が管理運営を担う、いわゆる地域移行では民間企業等への委託料等が発生し、部費以外の保護者負担も考えていかなければなりません。このことについて、徴収するうえで考えるべきこと・留意点などを、今度は、〇〇委員からご意見ををお願いします。
- 委員 いいサービスを受けるには費用負担は避けられませんが、払えない世帯などへの配慮は必要であると考えます。
- 委員 私も同意見です。部活動はお金がかかるので、やりたくてもやれないという子どもは救ってあげたいと考えます。
- 委員 1, 2, 3いずれにおいても費用負担はあってもよいと思います。地域クラブはもとより、外部指導員を増やすのであれば、費用負担は必要であると考えます。
- 委員 受益者負担は当然だが、他委員同様、金銭的な理由で部活動に参加で

- きない生徒をつくらないような配慮は必要だと思います。
- 委員 各委員同様、公立学校なので、ご負担の厳しい家庭への配慮のなかで、学校側でも、無理のない範囲で一定に配慮が必要だと思います(各種ユニフォーム・ウインドブレーカー等を取り揃えることへの配慮)。
- 委員 各委員同様、金銭的な理由で部活動に参加できないことがないよう、経済的配慮は必要であるのと、拠点校となっている学校への予算的な支援もお願いしたいところであります。
- 委員 各委員同様、経済的な理由で、部活動に参加ができないことがないようなシステムづくり、例えば、就学援助に似たようなシステムがあればよいと思います。
- 委員 ○○委員の意見のように部活動での就学援助のようなものがあれば、費用負担面ではクリアできると思いますし、先ほど意見がでた、学校側としてもユニフォーム等を揃える際に、無理のない範囲で一定の配慮は必要だと思います。
- 委員 部活動においてはどうしてもお金がかかります。部活動の費用を月単位で徴収せざるを得ません。部活動指導員の人件費等も含め、どう行政がバックアップしていくのか、今後の検討課題であると考えます。
- 委員 費用負担は致し方ないと思います。例えば、地域スポーツクラブは全国にあり、それぞれ運営されていますが、年会費と併せて各種目ごとの参加費用で運営されています。地域クラブに移行した場合はそのような形になっていくのかと想像します。
- 委員 ○○委員と同様、費用負担は致し方ないと思います。そして、将来的には、各委員同様、平日も含めた全部移行となるのがよいと考えます。
- 委員 費用負担は致し方ないとは思いますが、保護者としては、他の習い事の負担もあることから、各家庭それぞれやり繰りは大変であると考えます。出来れば市からの補助があるとよいと思います。
- 委員 費用負担は致し方ないが、経済的な理由で参加できない生徒が出てくるのは良くないと思います。参加したい子が全て参加できるような補助が必要だと思います。
- 委員 保護者負担は致し方ないと思います。他に指導員の人件費は、行政の方でしっかりと担ってほしい。特に指導者の資質のところ而言えば、ハラスメント対策等は重要で、小学生クラブチーム(サッカーチーム)を例にとると、試合中に指導者からの指導が暴言と判断されると、出場停止の措置がなされる場合もあります。そのあたりも含めた対策が必要であると考えます。
- 会長 ありがとうございます。生徒の活動を保証するために合同チームや拠点校方式の導入は早期に実現する必要がある一方で、保護者負担については、導入にあたり様々な整理が必要だということだと思います。

す。そうしますと、当面は学校部活動として地域連携の形で導入して生徒の活動を保証することになると考えます。但し、これらを持続的に進めていくためには、学校や教員の負担軽減についても考えていく必要があります。部活動指導員の適切な配置など地域連携でも着手可能なアイデアをいただいたところではありますが、国は休日の部活動から地域移行を進めていく方針でありますので、狛江市も地域移行を見据えながら、段階的に進めていくということだと思います。

事務局 渋谷区の地域移行の件ですが、補足説明をさせていただきます。一般財団法人渋谷区スポーツ協会のなかに、渋谷ユナイテッドという組織をつくり、渋谷区は生徒のニーズ調査をもとに、学校部活動が長くやれるようなクラブを新たに設立しています。これに関しては九つの部がありまして、フェンシング、ボーリング、ダンス、ポッチャ、将棋、サッカー、デジタルクリエイティブ、eスポーツ、料理スイーツマスタとありまして、それぞれ、月謝制で金額は異なり、前期・後期にわかれています。御負担をいただいております。それぞれの活動を支援している企業、協会があり、フェンシングはフェンシング協会が支援しておりまして、当初は負担はないようで(同協会が貸出)、各々活動の仕方異なります。既存の学校の部活動については、指導員等をここから派遣しているようです。移行に向け取組を進めているようです。他に完全移行を打ち出している自治体は、静岡県掛川市で、令和8年には地域クラブに完全移行、学校施設だけでなく、市の施設を使ったりと、完全移行にむけて進めているようです。

会長 渋谷区はウイークデイについても九つの部活動については、学校の手を離れているようですね。但し、保護者の負担はあるようです。このあたりについては、各市区町村対応はそれぞれ異なり、教員は東京都に採用されている関係上、渋谷区に異動ということもあり、教員としては異動の度に慣れていく必要があります。

#### 4. その他 第三回の予定について

事務局 次回は、本日までの議論の結果をまとめた報告書(案)を作成し、提示させていただきますので、その確認が主な議題となります。事務局としては協議会からの報告書に基づき、教育委員会としての方針を作成して参りたいと考えております。令和7年2月3日(月)の15:30市役所防災センター302, 303 会議室で開催予定です。よろしくお願いいたします。

会長 以上をもちまして、第2回推進連絡協議会を終了いたします。お疲れさまでした。